

## 第8章 社会連携・社会貢献

### 1. 現状の説明

#### (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。

本学は、建学の精神「真理愛好・個性尊重」に則り、2007年「大学憲章」を制定し、建学の精神に基づく本学のあるべき姿と、それを実現するための指針となる「本学の目指す姿」や「教育基本理念」をはじめ、「運営基本理念」や「本学が期待する教職員像」を定めた。大学憲章は、常に携帯できるよう小型のリーフレットにして全教職員に配付しているほか、大学公式ホームページや大学案内、Student Diary に掲載し、学生や一般の方にも周知を図っている（資料8-1、資料8-2、資料8-3 p.15、資料8-4 p.1-2）。

大学憲章に定めている「本学の目指す姿」のひとつとして、「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を掲げており、ホームページの地域連携のページには、「1）社会に役立つ人材の育成、2）知の社会への還元、3）地域社会への貢献などを通じて社会に開かれた存在でなければならない」との方針を定めている（資料8-5）。

また、教育基本理念のひとつとして、「グローバルな視点から地域社会の多様なニーズに対応できる教育」を掲げ、全学の地域社会に寄与する教育の規範としている。教育基本理念に基づき各学部・研究科は、教育研究上の目的とともにカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーをホームページに公表している（資料8-6 第2条の7、資料8-7～資料8-11 第1条の2、資料8-12・資料8-13 第2条、資料8-14、資料8-15）。

本学は2012年10月に「熟議2012 in 神戸学院大学」を開催し、大学における地域連携・協働事業の在り方の将来像を求め、教員・職員・学生が、本学の連携・協働事業に係る地域住民、行政、企業の方とともに、事業成果を振り返り、課題や今後の方向性を議論した。これにより、地域社会が抱える課題とそれを解決するために本学がなすべきことが明確になり、中期行動計画に挙げる具体的目標を見出すことができた。現在、中期計画の「地域連携ネットワークの確立と強化」と、「教育研究成果の社会への還元」に施策項目を掲げ、この施策の達成を念頭に、先述の方針と中期行動計画に基づいて社会連携事業を推進している（資料8-16、資料8-17 p.14）。

さらに、研究上の連携に関しても、2013年度からの5年間に実施する施策を「中期行動計画」として取りまとめた。「研究分野」の中期目標として、「優れた学術活動を奨励し、研究成果を学内外へ還元するとともに、地域と連携した特色ある研究の拠点形成を目指します」を掲げた。また2014年に全面的改正を行った「知的財産ポリシー」において、本学は「『真理愛好・個性尊重』を建学の精神に掲げ、『知を創造し、発信する大学』、『地域の住民・産業界と共に進化する大学』を目指して教育・研究を進め」、「大学で創造された知的財産を、新たな教育・研究に組み込んで進化させるだけでなく、地域に開かれた大学としての役割を果たすべく、広く社会に公開・還元することを使命」とすると規定するとともに、産学官連携活動を促進するための基本的学内規則である「利益相反マネジメントポリシー」についてもホームページにも公開し、学内外に広く周知している（資料8-17 p.7、資料8-18、資料8-19）。

2005年1月の中央教育審議会の答申の中で、教育・研究に並んで大学の第三の使命である「社会貢献」の重要性が強調され、また2006年の教育基本法改正、2007年の学校教育法改正により、大学の教育研究成果を社会へ提供することで社会の発展に寄与することが

明文化されたことを受けて、学生教育や教員の研究などを通じた学内外の連携を一層強固なものにするために、大学と社会（地域・広域含む）との窓口を明確にする必要があると考え、大学事務組織改革により、2011年度まで企画部広報・渉外グループで扱っていた渉外部門を独立させ、2012年4月1日付で社会連携部社会連携グループを設置した（資料8-20）。

大学事務をつかさどる各グループの所掌事務は、神戸学院大学事務組織規則第2条および神戸学院大学事務分掌細則に定められ、地域連携や外部連携、渉外事務をつかさどる部署は社会連携部社会連携グループ、研究上の外部連携に関することをつかさどる部署は研究支援センター研究支援グループであることを明確にしている。また、事務組織規則第17条には「職及び職務」が定められており、社会連携部長、研究支援センター所長、研究支援センター事務部長、各グループ長、各リーダー、各サブリーダーの職務と責任主体、権限を明確にしている（資料8-21、資料8-22 第20条、第17条）。

社会連携・社会貢献の適切性の検証と検証プロセスについても規則等に明文化している。神戸学院大学自己点検評価規則第2条に自己点検および評価の目的を、第3条に自己点検評価委員会の設置を、第4条に当該委員会の任務について定めている。当該委員会のもとに小委員会を置くことを定めている神戸学院大学自己点検評価規則細則第2条に、社会連携関係小委員会、研究支援関係小委員会が明記されている。同細則第3条には、当該組織が所管する事項について点検・評価を実施し自己点検・評価報告書を作成すると定められていることから、社会連携部社会連携グループが所管する地域連携や外部連携、渉外事務など本学の社会連携・社会貢献活動についての点検・評価、研究支援センター研究支援グループが所管する研究上の外部連携など本学の研究についての点検・評価を行っていることが明らかであると言える（資料8-23、資料8-24）。

報告書は年2回、中間報告と年次達成度報告書を作成しており、中期行動計画に基づく当該年度の目標を「計画」「実施・実行」「点検・評価」「処置・改善」の4項目で振り返り、検証することで、目標の達成度を判断し、同時に課題や問題点を洗い出すなど、次年度に繋げるための改善方法も明記する。この改善方法は次年度の活動目標となり、それが次年度どのように改善されたかが、また検証されることになる。

なお、社会貢献事業のうち、生涯学習にかかわる事項は、各学部教員、社会連携部長、社会連携グループ長を構成員とする生涯学習委員会で審議し、全学的調整を行う。また研究上の外部連携や学術研究など研究支援に関する事項は、研究支援センター所長、各学部教員、研究支援センター事務部長、グループ長を構成員とする研究支援委員会において審議している（資料8-25、資料8-26）。

## （2）教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

### a. 教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について

大学憲章に「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を掲げており、ホームページに、1) 社会に役立つ人材の育成、2) 知の社会への還元、3) 地域社会への貢献などを通じて社会に開かれた存在でなければならないとの方針を定め、中期行動計画に中期計画「教育研究成果の社会への還元」と明示し、これに沿って多様なサービス活動を展開している（資料8-2、資料8-5、資料8-17 p.14）。

主な活動としては、土曜公開講座、社会人キャリアアップ講座、体験型公開講座といった公開講座、外部からの依頼に応じる講師派遣事業、単位取得のための科目等履修生制度や、単位取得を目的とせず科目を聴講する聴講生制度があり、様々なライフスタイルや興味に応じた生涯学習事業を行っているほか、地域の子育て親子の支援や、近隣の幼小中学校における防災教育や国際理解教育などの出前授業や高等学校における講義などを行っている（資料8-27 p.17・21・22、53-56、資料8-28）。

とりわけ土曜公開講座は本学で最も歴史ある生涯学習事業で、1976年から毎年春と秋に実施しており、2016年度春期で通算71回、429講座を実施した。これまでの受講者数は延べ91,713人に上る。2012年まではKACのみで行っていたが、2013年より春はKACで5学部が1講座行うことで幅広い分野を学び、秋はKPCで2学部3講座ずつ行い、学部の専門をより深く学べるよう工夫している（資料8-29、資料8-30）。

社会人キャリアアップ講座は、2008年度文部科学省「社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の後継事業として2010年度より実施している。社会人のキャリアアップを目的とした一定のまとまりある学習プログラムとして、高齢者ケアに携わるリハビリ専門職や社会福祉の援助職を対象としたコースを設けている（資料8-31）。

体験型公開講座は2015年から開始したワークショップ講座で、大人を対象とするだけでなく小学生とその保護者を対象としたプログラムも実施している。小学生とその保護者対象の講座は、2014年から実施している神戸市連携事業「大学都市KOBE発信プロジェクト」の一環として、グランフロント大阪「ナレッジキャピタル」（知的創造拠点）で年間10回程度行っているワークショップ「KOBE こども大学」を学内で再現したもので、教員の専門を生かした実験やものづくりを通して、「学び」本来の楽しさを実感してもらうことを目的としている（資料8-27 p.7・8・54、資料8-32）。また、2000年から明石市産業振興財団と共催で明石市の中小企業と市民対象のセミナーや、2013年から大阪市立総合生涯学習センターと共催で大阪市民への学習機会の提供を目的とした大阪市生涯学習まちづくり市民大学いちょうカレッジでの連携公開講座、本学が加入する阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット主催の「公開講座フェスタ」で1998年から継続して講座を実施するなど、学外における生涯学習事業も積極的に行っている（資料8-27 p.54、資料8-33、資料8-34、資料8-35）。

さらに、神戸市の中でも特に子育て世代の流入が多く、子育て支援を必要としている人数が増加している一方で、大学による子育て支援事業の拠点が少ない西区において、「安全・安心な遊び場所の提供」、「教育研究を生かした育児や発育などの相談」、「子どもや保護者のコミュニティ創出」を目的に、2014年10月から「子育てサロンまなびー」として神戸市の地域子育て支援拠点事業「ひろば型」に参画し、保育士資格をもつスタッフを常駐させ、週3回のプレイルーム開放を基本に、人文学部人間心理学科教員の指導のもと学部生が音楽や工作、絵本の読み聞かせ、体操などを組み合わせた特別プログラムを週1回実施しているほか、月1回アート素材を用いて自己表現を行うアートプログラムを行うなど、発達心理学や臨床心理学、認知心理学の専門家がいる大学ならではの子育て支援事業を行っている（資料8-27 p.17、資料8-36、資料8-37）。ほかにも、学生が近隣の幼小中学校へ出向いて防災教育をはじめ国際理解教育や食育授業を行ったり、教員が近隣の高等学校で異文化理解やキャリア形成に寄与する授業を継続的に行っている（資料8-27

p. 21・22・32・55・56、資料8-38)。

b. 学外組織との連携協力による教育研究の推進について

大学憲章に「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を掲げ、ホームページに、1) 社会に役立つ人材の育成、2) 知の社会への還元、3) 地域社会への貢献などを通じて社会に開かれた存在でなければならないとの方針に沿って、学外組織との連携を行っている(資料8-2、資料8-5)。

自治体との連携として、本学は、人的・知的資源の交流や調査研究・事業の実施、教育研究や人材育成、社会貢献などの相互支援・連携を図る目的で、明石市(2005年)、神戸市西区(2007年)、神戸市中央区(2008年)、神戸市教育委員会(2010年)と「連携協力に関する協定」を、国立研究開発法人理化学研究所(2011年)、地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院(2011年)と「教育・研究協力に関する協定」を、国立病院機構神戸医療センター(2013年)、公益財団法人先端医療振興財団(2014年)、兵庫県立考古博物館(2014年)、大阪市立総合生涯学習センター(2015年)と「包括的連携協定」を締結し、これらの協定に基づいた教職課程履修学生による小中学校の指導補助を行う神戸市学生スクールサポーター事業のほか、中央市民病院薬剤部との共同研究や先端医療センター薬剤部との連携研究、兵庫県立考古博物館におけるインターンシップ実習、大阪市立総合生涯学習センターとの連携公開講座や防災学習プログラム開発などを展開している(資料8-3 p. 57-58、資料8-27 p. 15・33・55・71、資料8-39、資料8-40、資料8-41 人文学科インターンシップI)。また、2015年10月に地元神戸市と更なる連携強化のため、次の事項を中心とした包括連携協定を締結した。①防災、減災、②地域振興、地域課題の解決、③地域福祉の向上と子育て支援、④教育の推進と人材育成、⑤科学技術、産業振興、⑥国際交流の推進に関する事など、「知の社会への還元」と「地域社会に開かれた大学」を実現するために多岐にわたった連携を目標としている(資料8-42)。

神戸市とは自治体と大学との連携にとどまらず、神戸医療産業都市クラスター交流会や地元企業や農業者なども加わった、まさに産学官連携事業が多く、教員や学生が積極的に参加することで、本学の「社会に役立つ人材育成」という方針を実現すると同時に、机上では学べない実学を地域社会から学んでいる(資料8-27 p. 62・66・67・71)。

また、他大学との連携として、文部科学省の平成20年戦略的大学連携支援事業に採択された「ポアアイ4大学による連携事業-安全・安心・健康のための総合プログラムを軸として-」は、兵庫医療大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学と本学が、神戸ポートアイランド4大学連携協定に基づき、地の利と各大学の特色を生かした研究・教育活動で連携し、神戸ポートアイランド4大学連携単位互換制度やポアアイ4大学共通の教養科目としてポアアイ教養科目を開講している。さらに連携大学はそれぞれ地域社会に貢献するプログラムを行っており、本学に設置した「ポアアイ4大学連携推進センター」と、ポアアイ防災推進プロジェクトを進める「ポアアイ安全・安心ステーション」が当該事業を支えている。地域に貢献するプログラムの主なものとしては、ポアアイ4大学総合防災訓練の実施や若者の視点で地域に根ざした安全・安心なまちづくりを促進する目的で活動しているポアアイ・セーフティタウン・コミュニティによる交通安全啓発活動、特別地方公務員として14人の学生が任命され、地域の安全・安心を守るために活動する市町村の消防機関のひとつ

である学生消防団活動のほか、安全・安心をテーマとした公開講座や日本 DMAT 隊員養成研修運営補助、足湯ケア講習などがあげられる（資料8-27 p.49-50、資料8-43、資料8-44、資料8-45、資料8-46、資料8-47）。

さらに、文部科学省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に採択された「TKK3大学連携プロジェクト-防災・減災・ボランティアを中心とした社会貢献教育の展開-」は、東北福祉大学、工学院大学と本学が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定に基づき、それぞれの大学の特色、強みを生かしつつ文系と理系の融合により高度な社会貢献に関する研究・教育で社会に貢献することを目的としたプログラムを展開している。

防災・減災や環境およびボランティアに関する高度で実践的な教育のため、3大学合同の専門カリキュラムを開設し、遠隔授業システムによって、各大学で開講している科目を履修できる「学び合い」事業のほか、3大学連携のボランティア活動を中心とした「分かち合い」事業、3大学連携による災害時に備えた円滑な大学運営のための大学間バックアップシステムと地震防災訓練など学生主体の実践訓練「助け合い」事業を展開することで、学生の学士力向上と各大学の活性化、危機管理能力の向上を目指している（資料8-27 p.50、資料8-48～資料8-53）。

#### c. 地域交流・国際交流事業への積極的参加について

大学憲章に「地域の住民・産業界と共に進化する大学」を掲げ、ホームページに、1) 社会に役立つ人材の育成、2) 知の社会への還元、3) 地域社会への貢献などを通じて社会に開かれた存在でなければならないとの方針に沿って、学生、教職員が様々な地域交流・国際交流事業を行っている（資料8-2、資料8-5）。

地域交流事業として、高齢化が進む明石舞子団地（以下、「明舞団地」という。）の活性化を図るため、総合リハビリテーション学部が中心となって明舞団地再生展開事業に参画している。健康体力測定や認知症に関する基礎講座、サマーフェスティバルを実施するなど高齢者の交流イベントを企画運営しているほか、明舞団地学生シェアハウスに学生が住み、日々住民との交流を行っている。明舞団地であさぎりサマーフェスティバルを実施した学生が、孤立する住民の多い阪神・淡路大震災復興住宅「ベルデ名谷」で、住民交流のきっかけを作るための「ベルデ名谷スプリングフェスティバル」を企画・運営した（資料8-27 p.29-30、資料8-54 p.27-28）。

また、スポーツを通じた地域交流イベントとして、スポーツマネジメントユニットによる井吹台自治会連合会との連携ウォーキングイベント「いぶきの森を歩こう」、井吹東まちづくり協議会などとの連携した子育て世代の交流イベント「きらきら祭り」の実施や、課外活動団体や一般学生などが近隣の自治会が主催する音楽コンサートや祭りといった地域交流イベントに参加するほか、人文学部を主体とする地域研究センターでは、有瀬・明石・長田の各エリアにおいて、古民家を活用した勉強会やワークショップイベントの実施、伝統民族文化や地場産業について地域と協働研究など地域との相互交流を前提とした研究を行っている（資料8-27 p.37・41・42・45・46）。

さらに、国際交流事業として、日露政府間協定に基づいて実施する日露青年交流事業に経済学部生の企画が採択され「日露アニメ・オタク文化学生サミット」に学生がロシアへ派遣されたほか、グローバル・コミュニケーション学部が、日本人と在日中国人の交流イ

ベント「中秋名月祭大阪 2015」出展や、日本語を学ぶ中国帰国者との交流イベント「堺健康クラブとの交流会」の企画運営をした。

ほかにも、本学が大学の活性化・地域の活性化・社会貢献等に繋がる学生の学びを支援する学生チャレンジプロジェクトにおいて、経営学部生が学際異文化交流プロジェクトとして、兵庫国際交流会館と協力し、日本人学生と留学生の交流を深めるイベントを企画実施したり、グローバル・コミュニケーション学部生が異文化交流の拠点をめざして日本や海外の文化に触れる体験イベント「地域住民との交流プロジェクト 世界の窓 神戸学院」を企画実施した（資料8-27 p.11・14・23・64、資料8-55）。

d. その他、特色ある社会連携・社会貢献の実施について

グリーンフェスティバルは本学の特徴的な社会貢献事業であり、地域の文化と芸術の振興に寄与している。1988年から毎年春と秋に西欧のクラシック音楽や日本の古典芸能を中心とした国内外の一流アーティストを招き、学内ホールで舞台芸術公演を実施。学内関係者のみならず、地域の方にも無料で開放している。著名なアーティストの公演だけでなく、将来性のある地元の若手アーティストにも出演の機会を提供しその活動を支援しているほか、本学課外活動団体も出演し、学生の活動成果を地域の方に発表する場にもなっている。また、2014年度より、一部の音楽公演ではプレ・イベントとして音楽評論家を招き、その公演に関連する音楽レクチャーを行い、音楽を学術的に、より深く鑑賞できる取り組みも行っている。2016年春季までの公演数は379回にのぼり、来場者数は延べ17万人を超えている。2010年には、当該事業開始当初から音楽公演のコーディネーターを務めてきた元教員に対して、神戸市より神戸市文化活動功労賞が授与され、長年に渡り地域住民の方々の文化享受に貢献してきたことが高く評価された（資料8-56、資料8-57、資料8-58）。

2. 点検・評価

●基準8の充足状況

本学は、「大学憲章」の神戸学院大学の目指す姿に基づき社会連携・社会貢献の方針を定めるとともに、本学ホームページで社会に公表している。その方針に基づき「中期行動計画」の施策項目を定め、社会連携事業を推進している。大学と社会との窓口を明確にするため社会連携部を設置し、責任主体・組織、権限などを明確にするとともに、関係する自己点検評価小委員会が点検・評価を定期的に行い、改善につなげている。生涯学習事業は、公開講座、講師派遣事業、科目等履修生制度、聴講生制度があり、教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動を推進するとともに学外組織との連携協力による教育研究も推進している。

以上の点から本学は、基準8を充足している。

①効果が上がっている事項

グリーンフェスティバルは、日ごろ接する機会が少ない、あるいは珍しい舞台芸術も積極的に取り上げており、地域住民の方々が格調高い古典芸能や舞台芸術に、気軽に触れるきっかけになっている（資料8-56、資料8-59）。

## ②改善すべき事項

社会人キャリアアップ講座の高齢者ケア講座は2010年から2014年まで履修証明プログラムとして実施していたが、教員への負担が大きいことから、2015年以降、講義時間を短縮し、通常の講座として実施している。

### 3. 将来に向けた発展方策

#### ①効果が上がっている事項

グリーンフェスティバルの演目は、これまでもクラシック音楽や日本の古典芸能だけにとどまらず、ペルシャ音楽やシャンソン、コントや人形劇など、バラエティに富んだ舞台芸術を取り上げてきた。今後もジャンルにとらわれない舞台芸術公演を行い、公演前のレクチャーや当日配付のパンフレットでその舞台芸術の知識が深められるような工夫をしていく（資料8-60、資料8-61、資料8-62）。

## ②改善すべき事項

履修証明プログラムを復活できるよう、専任教員に加えて外部講師も積極的に活用し、多様なニーズに応じた学習機会の提供を行う。

### 4. 根拠資料

資料8-1 神戸学院大学憲章小型リーフレット

資料8-2 本学ホームページ 大学憲章（既出 資料1-11）

<http://www.kobegakuin.ac.jp/information/charter/>

資料8-3 KOBE GAKUIN UNIVERSITY 2017 GUIDE BOOK（既出 資料1-13）

資料8-4 Student Diary 2016（現物）（既出 資料1-31）

資料8-5 本学ホームページ 地域連携

[http://www.kobegakuin.ac.jp/social\\_contribution/regional/](http://www.kobegakuin.ac.jp/social_contribution/regional/)

資料8-6 神戸学院大学学則（既出 資料1-2）

資料8-7 神戸学院大学大学院法学研究科規則（既出 資料1-4）

資料8-8 神戸学院大学大学院経済学研究科規則（既出 資料1-5）

資料8-9 神戸学院大学大学院人間文化学研究科規則（既出 資料1-6）

資料8-10 神戸学院大学大学院食品薬品総合科学研究科規則（既出 資料1-10）

資料8-11 神戸学院大学大学院栄養学研究科規則（既出 資料1-8）

資料8-12 神戸学院大学大学院総合リハビリテーション学研究科規則（既出 資料1-7）

資料8-13 神戸学院大学大学院薬学研究科規則（既出 資料1-9）

資料8-14 本学ホームページ 大学概要 - 教育情報 - カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（既出 資料3-45）

<http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/curriculum.html>

資料8-15 本学ホームページ 大学概要 - 教育情報 - ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）（既出 資料3-57）

- <http://www.kobegakuin.ac.jp/information/outline/policy/diploma.html>
- 資料8-16 熟議 2012 in 神戸学院大学 実施報告書
- 資料8-17 2013-2017 中期行動計画進捗報告書 学校法人神戸学院 2016年4月 (既出 資料7-7)
- <https://bookshelf.wisebook4.jp/html/kguebook/9378/#1>
- 資料8-18 神戸学院大学知的財産ポリシー
- <http://www.kobegakuin.ac.jp/facility/rsc/intellectual/policy/pdf/01-tizai-policy.pdf>
- 資料8-19 神戸学院大学利益相反マネジメントポリシー
- [http://www.kobegakuin.ac.jp/facility/rsc/management/pdf/07-policy\\_170123.pdf](http://www.kobegakuin.ac.jp/facility/rsc/management/pdf/07-policy_170123.pdf)
- 資料8-20 総合企画会議資料3 (2012年1月12日)
- 資料8-21 神戸学院大学事務組織規則 (既出 資料6-65)
- 資料8-22 神戸学院大学事務分掌細則 (既出 資料6-66)
- 資料8-23 神戸学院大学自己点検評価規則 (既出 資料6-67)
- 資料8-24 神戸学院大学自己点検評価規則細則 (既出 資料4(1)-78)
- 資料8-25 神戸学院大学生涯学習委員会規程
- 資料8-26 神戸学院大学研究支援委員会規程
- 資料8-27 KOBE GAKUIN UNIVERSITY 社会連携事業紹介 2015 (既出 資料4(2)-75)
- 資料8-28 本学ホームページ 科目等履修生・聴講生
- [http://www.kobegakuin.ac.jp/social\\_contribution/lifelong/subject/](http://www.kobegakuin.ac.jp/social_contribution/lifelong/subject/)
- 資料8-29 本学ホームページ 土曜公開講座
- [http://www.kobegakuin.ac.jp/social\\_contribution/lifelong/saturday/](http://www.kobegakuin.ac.jp/social_contribution/lifelong/saturday/)
- 資料8-30 土曜公開講座第1回～第70回 公開講座一覧表 (1976年第1回～2015年第70回まで)
- 資料8-31 本学ホームページ 神戸学院大学 社会人キャリアアップ講座 (履修証明プログラム) 地域リハビリテーション従事者キャリアアップコース
- [http://www.kobegakuin.ac.jp/social\\_contribution/lifelong/careerup/](http://www.kobegakuin.ac.jp/social_contribution/lifelong/careerup/)
- 資料8-32 『KOBE こども大学 クリスマス企画』 作って遊んで楽しく英語を学ぼう
- 資料8-33 明石市産業振興財団共催セミナー一覧
- 資料8-34 神戸学院大学連携公開講座 いのちを守る防災コース
- 資料8-35 公開講座 フェスタ 2016
- 資料8-36 子育てサロンまなびーリーフレット
- 資料8-37 子育てサロン案内
- 資料8-38 防災等出前授業2014～2016
- 資料8-39 各連携協力協定書
- 資料8-40 地域で取り組む 防災学習 プログラム開発
- 資料8-41 本学ホームページ シラバス検索システム(学部・大学院) (既出 資料3-113)
- <https://infp.j.kobegakuin.ac.jp/portal/faces/login/Com00501B.jsp>



- 資料8-42 神戸学院大学と神戸市との包括連携に関する協定書
- 資料8-43 ポーアイ4大学による連携事業ホームページ  
<https://www.kobegakuin.ac.jp/~kp4uc/>
- 資料8-44 神戸ポートアイランド 4大学連携 単位互換 履修生
- 資料8-45 2016年度 ポーアイ教養科目
- 資料8-46 ポーアイ4大学による連携事業 ポーアイ4大学 総合防災訓練のお知らせ
- 資料8-47 ポーアイ4大学 総合防災訓練2016
- 資料8-48 T K K 3 大学連携プロジェクトホームページ  
<https://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/>
- 資料8-49 T K K 3 大学連携プロジェクトのご案内 社会貢献活動の担い手づくりを目指して  
[https://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/project/data/tkk\\_201305.pdf](https://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/project/data/tkk_201305.pdf)
- 資料8-50 T K K 3 大学連携プロジェクトホームページ カリキュラムのご案内  
<https://www.kobegakuin.ac.jp/~tkk/curriculum/>
- 資料8-51 そなエリア東京 そなえ パークの日
- 資料8-52 東京臨海広域防災公園 子ども防災教育ボランティア 報告書
- 資料8-53 河北新報 2016年9月2日 夕刊8面 大学生被災地に集う
- 資料8-54 KOBE GAKUIN UNIVERSITY 社会連携事業紹介 2014 (既出 資料4 (2) -83)
- 資料8-55 「第2回日露アニメ・オタク文化学生サミット」を開きました (既出 資料4 (2) -71)
- 資料8-56 本学ホームページ グリーンフェスティバル  
[http://www.kobegakuin.ac.jp/social\\_contribution/greenfes/](http://www.kobegakuin.ac.jp/social_contribution/greenfes/)
- 資料8-57 上村嘉夫名誉教授に神戸市文化活動功労賞!
- 資料8-58 グリーンフェスティバル1988~2016年入場者数
- 資料8-59 毎日新聞 2015年11月5日 夕刊8面 イエーツ狂言で“里帰り”
- 資料8-60 能『安達原白頭』を観る会
- 資料8-61 オペラ「奥様女中」とバロック・アリア集
- 資料8-62 コンテンポラリー・デュオ 村田厚生&中村和枝